

# 水痘帯状疱疹ウィルスが原因と考えられた 急性喉頭炎症例

木口 淳 小関 晶嗣 渡邊 暢浩 村上 信五

名古屋市立大学耳鼻咽喉科

間宮 敦

間宮耳鼻咽喉科

## Case Report: Herpes Zoster Viral Laryngitis

Jun KIGUCHI, Masashi OZEKI, Nobuhiro WATANABE, Shingo MURAKAMI

Department of Otolaryngology, Nagoya City University

Atushi MAMIYA

Mamiya ENT clinic

We report a case of laryngitis caused by Herpes zoster reactivation in a patient who was seen at our department with an abnormal sensation in the throat and a unilateral aphtha on the right side of the epiglottis and arytenoid. The patient was a 58-year-old female who had gone through antibiotic therapy at another ENT clinic before she presented to our department. The antibiotic therapy was not effective. As we suspected laryngitis due to a Herpes zoster Infection, she was closely examined and treated with Varacyclovir 3000mg/day for 7 days. Her symptoms and local findings improved and were finally cured with this treatment. The remarkable increase of VZV antibody on CF and that episode led to a diagnosis of Herpes zoster viral laryngitis.

### はじめに

水痘帯状疱疹ウィルス喉頭炎は比較的希な疾患で、免疫低下時、新生児期、挿管後にみられることがあると報告されており、診断に苦慮する場合が多い。今回我々は水痘帯状疱疹ウィルスによる急性喉頭炎の1症例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告する。

症例：58歳、女性

主訴：喉頭部異物感

現病歴：平成13年9月12日より激しい咽頭痛、咳症状出現。近医受診し、喉頭部に白苔を伴う発赤病変を認めた。抗生剤治療、及びステロイド吸入療法を施行されるも改善せず、紹介にて当科受診となる。

既往歴：20年前に顔面神経麻痺、水痘の既往は不明

家族歴：特記事項なし

初診時所見：9/19 喉頭所見にて右被裂部、

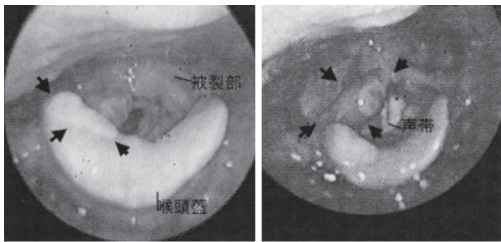


図1 初診時（平成13年9月19日）の喉頭所見  
喉頭蓋右半側，右被裂部が発赤し白苔の付着を認める。声帯の動きは良好である。

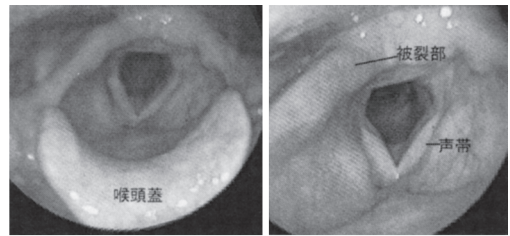


図3 治療後再診時（平成13年11月28日）喉頭所見  
自覚症状，喉頭所見ともに完治していた。

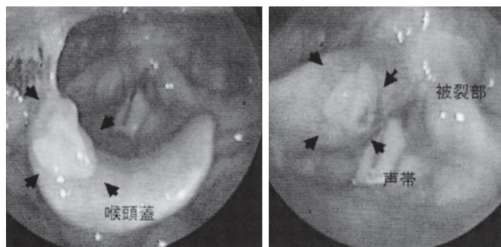


図2 再診時（平成13年9月21日）の喉頭所見  
バラシクロビル投与2日後自覚症状はやや改善を認めたが，喉頭所見に著変は認めない。

喉頭蓋右側に発赤，白苔の付着を認めた。反回神経麻痺等の所見は認められなかった。（図1）

検査所見：白血球数  $5500/\text{mm}^3$ ，CRP  $0.05 \downarrow \text{mg/dl}$ ，血沈1時間値  $7\text{mm}$ ，2時間値  $19\text{mm}$ と炎症所見は認めなかった。また，ツベルクリン反応は  $10\text{mm} \times 8\text{mm}$ と偽陽性であった。

胸部X線写真：異常所見なし。

初診時，激しい咽頭痛を伴いまた抗生剤に対して抵抗性を示した経過より，ウイルス感染症を疑いバラシクロビル  $3000\text{mg}$  3日間経口投与を行った。9/21再診時，喉頭所見に改善はみられなかった（図2）ものの，自覚症状に改善が認められていたため，さらにバラシクロビル  $3000\text{mg}$  を4日間追加投与を行った。9/26再診時では喉頭所見においても，右喉頭蓋の白苔，発赤は消失し，さらに自覚症状の喉頭部異物感も消失しており，治療していると考えられた。2ヶ月後11/28再診時において喉頭部所見，自覚症状ともに異常所見は認められなかった。

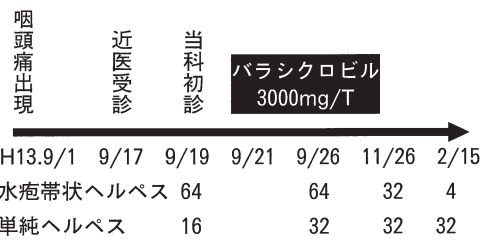


図4 水痘带状疱疹ヘルペス，単純ヘルペスウィルス抗体価（CF法）の推移

水痘带状疱疹ウィルス抗体価，HSV抗体価の推移を時系列に示す（図4）。

## 考 察

喉頭に白苔様病変を呈する鑑別疾患としては，喉頭悪性腫瘍，喉頭結核，喉頭梅毒，ジフテリア等があげられる。ヘルペス性喉頭炎は比較的希な疾患であり，ペア血清抗体価の測定や，生検組織のDNA in situ hybridization，組織診断においては水痘带状疱疹ウィルスの特異的核内封入体の同定<sup>1)</sup>が確定診断に必要であり，病初期においての診断は容易ではない。

ヘルペス性喉頭炎には，アフタ性病変以外にも反回神経麻痺による嗄声，クループ等呼吸器症状を呈する症例も報告されている<sup>2,3)</sup>。また，多発性脳神経障害を合併した症例<sup>4)</sup>，気管内挿管後，ステロイド吸入後にヘルペス性喉頭炎が発症したという報告もある<sup>5,6)</sup>。後遺症として反回神経麻痺の残存，前交連 Web 形成が報告されているため注意が必要である<sup>7,8)</sup>。

一般的には呼吸障害がなければ予後はよく、抗ウイルス薬により軽快していくものと考えられるが、炎症、浮腫の程度、呼吸状態によって気管切開も必要となる症例もあるため、早期診断治療が必要である。現在確定診断のためには水痘帯状疱疹ウイルス抗体価の測定が有用であるが、日常の診療において検査結果がでるまで約7日間を要し、初診時においては診断に苦慮する場合が多く、抗体価の上昇を確認せずに所見と経過より Empiric therapy となる症例が多い。

治療として抗ウイルス薬が有効であるが、早期確定診断が困難なため、報告されている症例が少なく、現在までにその投与量や投与期間は確立されていない。この症例においてはバラシクロビル 3000mg/日の7日間経口投与により症状、喉頭所見の改善が認められた。本症例では、発赤、白苔様病変は被裂部、喉頭蓋の右半側に限局しており、また激しい咽頭痛、抗生剤に対して抵抗性を示した経過からヘルペス性喉頭炎が疑われた。診断的治療として、バラシクロビル 3000mg/日投与を行い3日後の再診時自覚症状に改善がみられたため、さらに4日分の追加投与を行った。その後、初診時、急性期における水痘帯状疱疹ウイルス抗体価 (CF法) は64倍と上昇していたことが判明した。また喉頭部における自覚症状、白苔様病変の改善と共に、水痘帯状疱疹ウイルス抗体価も4倍までの低下が認められた。それに加え20年前に顔面神経麻痺の既往歴もあり、水痘帯状疱疹ウイルスの再活性化による急性喉頭炎と診断して矛盾しないものと考えられた。

### ま と め

今回、水痘帯状疱疹ウイルスの再活性化による急性喉頭炎の症例を経験した。激しい咽頭痛を伴い、抗生剤治療に抵抗性を示す一側性の喉頭アフタ性病変にはヘルペスウイルス感染を考慮に入れた治療が必要と考えられた。

また現在ヘルペス性喉頭炎の診断にはウイルス抗体価 (CF法) が一般的だが判定に時間を要し、Empiric therapy が中心になっているのが現実である。今後EBMの見地から、唾液やアフタ拭い液からのPCRによる迅速診断及び水痘帯状疱疹ウイルスによる急性喉頭炎の治療指針の確立が必要と思われた。

### 参 考 文 献

- 1) Nishizaki K: Laryngeal zoster with unilateral laryngeal paralysis, ORL Jotorhinolaryngol Relat Spec, 59 (4): 235-237, 1997
- 2) Mancao MY: Herpetic croup, two case reports and a review of the literature, Acta Paediatr, 85 (1): 118-120, 1996
- 3) 松村優子: 喉頭麻痺を呈した帯状疱疹ウイルス感染の3症例, 日本気管食道科学会会報, 52巻2号: 186, 2001
- 4) 西澤典子: VZV再活性化による混合性喉頭麻痺の1症例, 日本気管食道科学会会報, 53(2): 225-226, 2002
- 5) Phillip Ashley Wackym: Herpes zoster of the larynx after Intubational traum, The Journal of Laryngology and Otolology, vol. 100: 839-841, 1986
- 6) 鈴木政彦: ヘルペス性喉頭炎の1症例, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 74(3): 196-198, 2002
- 7) 田浦晶子: ウイルス感染による迷走神経麻痺例, 耳鼻咽喉科臨床, 90巻10号: 1135-1140, 1997
- 8) Pahor AL: Herpes zoster of the larynx: How common?, J Otolaryngol Otol, 93 (1): 93-98, 1979

連絡先: 木口 淳

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1

名古屋市立大学耳鼻咽喉科

TEL 052-853-8256 FAX 052-851-5300